

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)	◎	観光型ホテル（経営者）	・観光シーズンに突入するため良くなる。ただし、災害等の懸念から、観光シーズンという要因を除いた景況感は厳しくなる。
	◎	旅行代理店（経営者）	・9月は前年並み、10月は前年以上の販売量が見込まれている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響もあるが、来客数もそれほど落ちていないため、やや良くなる。
	○	コンビニ（店長）	・近隣に住んでいる人の多くは高齢者のため、この暑さのなか、人出がかなり落ち込んでいる。涼しくなれば少しは回復すると期待している。
	○	家電量販店（店員）	・2027年に新たな省エネ基準が開始されることと、天候により、夏後半のエアコン販売にも期待が持てる。
	○	一般レストラン（経営者）	・夏休みとお盆で客足が増えるはずなので、やや良くなる。
	○	都市型ホテル（経営者）	・季節的に宴会は少ないものの、宿泊予約は立地条件的にインバウンドは無関係であるが、前年比1.5倍と良くなっている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会件数は前年と比べて増加しており、明らかに前年より業界団体の集まり等が増えている。宿泊も近隣施設、特にスポーツ関連施設の利用に関連した予約が増えている。一方、中東情勢の影響により企業の団体旅行等によるレストランのバスストップ利用が減っており、懸念材料ではあるものの、全体としてはおおむね良い流れである。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良かったので、この先も良くなる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先も残暑が続く予報であり、来場意欲の低下やキャンセルの増加が懸念される。また、物価上昇による生活防衛意識の高まりから、レジャー支出を控える動きも続く。
	○	美容室（経営者）	・酷暑対策としてメニュー化したクールシャンプーを希望する客の増加が期待できる。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・暑さの影響がなくなっている頃かとみているが、主食の米価も安定してきているため、一般的には落ち着くとみている。ただし、景気はまだしばらくは変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・今月は、国内外の旅行客共に順調に土産物類を購入してもらっていたが、月末に令和8年熊本地震が発生した。国内で大きな災害が起きると、旅行のような娯楽を控える傾向が出るため、観光業は今後はやや厳しくなる。
	□	百貨店（営業担当）	・終わりのみえない価格高騰を消費者も我々も恐れている。そのなかで、商品のお買い得情報への機敏な反応、高額品でも購入の決断の早さに目を見張るものがある。ますます消費者は堅実かつ慎重な購買行動を取っていくとみられる。
	□	百貨店（店長）	・前月同様に富裕層の購買は維持できているものの、中間層の来店や売上が前年を下回る状況が続いている。物価上昇などの環境が当面変わることはない想定されるため、今後もこの状況が続く。
	□	コンビニ（エリア担当）	・物価高騰の影響により、客の節約志向や買い控えは続いており、販売環境は依然として不透明である。
	□	衣料品専門店（経営者）	・良くなる根拠が見当たらない。
	□	家電量販店（企画担当）	・2027年のエアコンの省エネ基準を背景に、下期にかけてもエアコンが堅調に売上を伸ばすことが期待できる。
	□	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産台数は比較的順調で安定している。
	□	乗用車販売店（従業員）	・相次ぐ物価上昇により家計は引き締められ、高額品の購入が敬遠される傾向は、今後も変わらず長期化する。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・身の回りでは、良くなる材料や極端に悪い材料もない状態で現状を維持している。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・食料品中心に値上げが続き、ガソリン代も高止まりしている。値ごろ感のあるものだけは堅調だが、それ以外、特にレジャー関連品は下げ止まりがみえない。
	□	その他専門店（総務担当）	・見積りが少ない状況は変わらない。

	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・食材や資材の値上がりが続いており、人件費の高騰もあいまって、利益確保が難しい。
	□	一般レストラン（経営者）	・賃上げや景気が良くなる気配はない。しばらくはこのままではないかと考える。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・天候や地政学等、世界的な要因で先行きは非常に不透明であり、給食事業への中長期的な影響が読みにくい状況である。人件費の上昇も含めて取引条件の引上げ交渉を行うにしても、根拠が明示にくく、クライアントとの交渉を進めにくい。結果、収支面が圧迫されていくことが懸念される。
	□	都市型ホテル（支配人）	・宿泊部門は夏休み期間に入り、イベント等もあるため高単価かつ高稼働が見込める。料飲部門は夏は閑散期となるため、両部門を合わせると変わらない。
	□	旅行代理店（所長）	・秋の旅行シーズンを迎えるが、懸念されるのは中東情勢に関連した先行き不安感によるインバウンドの減少である。国内旅行客も同様の懸念があることから、良くなる兆しがみえない。
	□	旅行代理店（従業員）	・伸びがない状況は変わらない。
	□	旅行代理店（営業担当）	・ガソリン価格や物価高など、生活に直結する部分の影響が大きい。レジャー産業の景気上昇は、まず生活がある程度落ち着いてからとなる。
	□	通信会社（営業担当）	・世界情勢の影響により、近隣諸国を含めた燃料費の高騰から、輸入品は影響を受けている。
	□	住宅販売会社（経営者）	・問合せ等が減っており、動きも大変鈍くなっている。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・あらゆる物が高騰し続けているとの認識は、客にもある程度は深まっているが、依頼や受注が増えるとは考えにくい。現状と変わらない状況がまだしばらくは続く。
	▲	商店街（代表者）	・今月に入って、メーカーからの値上げ通知があり、今後も様々な商材の価格上昇があるようである。中東情勢の影響もあるため、先行きは不安である。
	▲	スーパー（商品部担当）	・現状が悪く、回復の兆しがみえない。中東情勢の影響や食料品の値上げには落ち着く気配もなく、厳しい状況が続くとみている。猛暑、酷暑の影響により、一部商材の数字は良いものの、全体的に影響が出るほどではない。
	▲	スーパー（経営企画）	・値上げはあるが、賃金は上がらない。
	▲	家電量販店（営業担当）	・季節指数が高いことは良い状況とはいえない。反動で大きく悪化となる。しかし、今年はエアコンの低価格帯商材確保が急務な課題である。協力会社と連携して取り組んでいる。
	▲	タクシー運転手	・物価上昇の影響からタクシー利用客は少ない。地方ではレンタカーの利用が増えている。
	▲	通信会社（社員）	・現状が続くことを前提に、やや悪くなる可能性がある。当社サービス料金の値上げを検討せざるを得ない。
	▲	通信会社（総務担当）	・更に値上げが進むとみている。
	▲	テーマパーク（職員）	・中東情勢に加え、円安、猛暑等の外部要因による外出控えや、レジャー費は劣後に回ることから、旅行自体を懸念するのではないかとみている。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	・商材単価の改定により、客の購買点数が減少している。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・手取りが増えないなど、この状態なら、皆、消費はしなくなる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・米国、中国、国内の不安定さもあり、悪くなる。
	×	通信会社（経営者）	・円安による資材価格の高騰が大きい。以前より価格転嫁しやすい環境にはなりつつあるが、売れなければ価格を下げざるを得ない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・ナフサ不足が本格化し、各部材への影響も表面化してくる。全体的に状況は悪化していく。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・9月、10月になれば猛暑が過ぎ、過ごしやすい行楽シーズンが訪れ、猛暑の反動で屋外を楽しみたい人々の行動が活発になるとみており、やや良くなる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・秋口から半導体関連の仕事に増産予定があり、多少上向く見込みである。

	○	経営コンサルタント	・一部の中小製造業は、原材料等の諸物価の上昇対策として価格転嫁を進め、当分の間は業況の先行き不安はないが、顧客流出の防止と新規客の獲得が新たな課題となっている。自動車部品の下請製造業では、受注の回復から増加に転じつつあり、先行きの生産見通しは明るくなっている。
	□	食料品製造業（経営者）	・昇給時期を過ぎたが、それ以上に物価上昇が予想される。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・令和8年熊本地震の発生時にはスマートフォンに震度7の緊急地震速報が入り、非常に驚いた。今の生活が続いていけばよいと考える。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・猛暑のなか、変わらずに稼働している。
	□	金属製品製造業（経営者）	・景況感は低調な状況で変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先は大手企業を含み50社ほどあるが、景気の良さそうな会社がなく、気掛かりである。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・製造業全体でも受注量、販売量は落ちている。取引先等もこれから急激に販売が増える様子はないため、悪くなるかわからないかのどちらかである。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等が、依然として続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・8月も暑い日が続きそうで、エアコン、冷蔵庫、冷凍庫等の物量は前年並み以上を確保予定である。中東情勢等もあり、燃料価格の高騰、エンジンオイルの高値など、しばらくはコスト高が続きそうなので、利益確保には不安がある。
	□	社会保険労務士	・円安が進んでいるため、外資が大型投資してくれればよいが、内需は今と変わらないとみている。
	▲	化学工業（管理担当）	・電気代、アセトンなど各種材料の値上げが続き、製造原価を押し上げている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・今がピークの受注量で、今後は多少下がる。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今までは中東情勢の影響を余り受けることなく生産を続けることができたが、主要取引先から生産に使用する油脂類に問題が出てきそうだと連絡があった。現時点でどうなるかの回答はない。中東情勢がいまだ安定していないため、今後は不安である。
	▲	建設業（総務担当）	・とにかく業務量が不足している。発注見通しを見ても件数が少なく不安である。
	▲	金融業（営業担当）	・中東情勢の混乱が長引いており、石油由来の資材調達が再び困難になる可能性が高まっている。
	×	不動産業（管理担当）	・円安による原料費の高止まりと今後も続く資材の値上げに対し、受注金額の引上げができるかが分からない。人手不足による業務受注減少なども見込まれるため、今後も厳しい状況が続く。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・購買力等が全般的に少し持ち直して、今までよりやや良くなるとみており、購買力も伸びてくる。夏休みの関係で、観光地も含めたレジャー産業等の購買力は伸びていく。住宅、建設関係は、天候に左右されることもあり、人手がなかなか確保できず、やや沈滞ムードである。
	□	人材派遣会社（社員）	・物価高騰が続く限り、特に、中小企業は採用も厳しい状況が続く。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月と横ばいで推移している。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	・様々な要因により不透明な部分が多くあるため、各企業が様子見の状況である。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・製造派遣の減産計画が発表され、3か月後から減産になる。派遣が縮小又は終了するため、やや悪くなる。
	×	*	*